

JAC アワードを受賞して

電通クリエイティブX プロデューサー：五郡 由賀

■JAC AWARD の受賞年度

2015年に、リマーカブル・プロダクションマネージャー・オブ・ザ・イヤーを受賞することができました。PMとしてがむしゃらに頑張った年に頂けた賞だったので、とても嬉しかったです。またその年は、当時弊社に在籍なさっていたプロデューサーの城殿さん(現在 KEY pro)と P・PMのW受賞だったので、非常に思い出に残っております。

■応募の動機

正直、上司に「出してみれば？」と声をかけてもらったところから始まっているのですが、最終応募理由としては「せっかくだったら、自分の頑張り・努力を何かの形に現しておこう」でした。

「こういう働きをして今年も頑張った。お疲れ自分！」ということ、せっかくだったら形に残してみようかな。かつ、がむしゃらに頑張った作品たちを自分の中で最終完パケさせようかなと思いました。

正直、自己PR動画を作るのは非常に苦手なのですが、作ることによって自分をもう一度見つめ直す機会ができます。かつそれで受賞したらラッキーだ！と自分を鼓舞させて、周りの協力を得て作りました。

PやPMは縁の下の力持ちで、スタッフの賞があっても自分たちの賞はなかなかありません。

「せっかくだから！」が自分の動機ポイントでした。

■JAC AWARD を受賞して

思った以上にたくさんの方に「おめでとう！」とお声がけいただきました。

会社の上司・後輩を始め、スタッフのみなさん、かつCRのみなさん、そして何より実家の家族は非常に喜んでくれました。両親は業界が全く異なるので、こういうことをしていたんだ！と改めて実感したそうです。周りの人たちが喜んでくれると、自分も嬉しくなります。受賞できたことで、もっと頑張っていこうと思いました。

仕事に影響したかという「しました！！」と大きな声では言えませんが、CRの方々にポジティブな印象を与えられたことは間違いありません。誰かから伝わって「ああ、あの受賞していた子ね！」ということも度々あり、ハードルは少し上がりますが、頑張らなきゃと身を引き締めることができました。笑

個人的に本当にあの年はPMとして頑張った年・永遠に覚えている年なので、そこがこのような形になって残せたことは今でも素直に嬉しいです。

■プロデューサー、PMの皆さんに伝えたい事

それぞれに応募理由があると思うのですが、もし迷っている方がいたら「せっかくだから！」の勢いでぜひ応募してください！「大変そう」と思うかもしれませんが、それは、まあ大変です！(笑)しかし、普段の作業の方がもっと大変ですし、こんな機会はPやPMにはなかなかありません。自分を見つめ直すきっかけにもなるので、せっかくだったらぜひ応募しましょう！